

○放射線の影響について

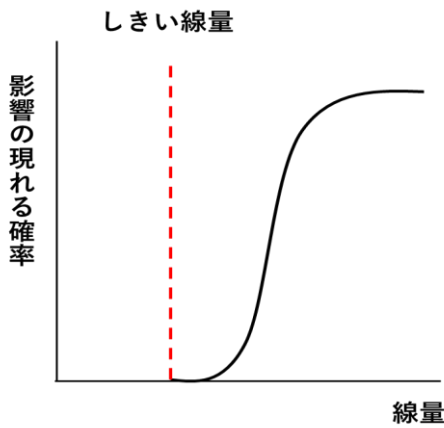
・確定的影響

これは、ある一定の線量（しきい線量）を超えると人体に障害がでてくるといった影響になります。逆に、しきい線量を超えさえしなければ、その検査において影響はできません。

また、しきい線量は「放射線を浴びた集団において 1～5%で放射線の障害が発生する線量」として決められているため、これを超えたからと言って、必ず障害が起きるという意味ではありません。

これらの症状には、脱毛、皮膚障害、下痢、不妊等があります。

影響	しきい線量 (mGy)
一過性脱毛	3000
不妊	3500～6000
胎児への影響	100
白内障	5000～



・確率的影響

これは、発がんや遺伝的影響に関する影響となり、しきい線量はなく線量の増加に伴い発症率も上昇していくものになります。

しかし、広島・長崎の原爆被爆者を対象にした疫学的調査において、50-200mSv 以下の被ばくでは、放射線とは関係なく自然発生する影響との統計的有意差は認められていません。そのため、100mSv 以下の被ばく線量では、影響の発生を心配する必要はないとされています。

